

日本のGDPは2四半期ぶりのマイナス

ポイント① 7-9月期は市場予想を下回る

11月15日発表の2021年7-9月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比年率（前期比を1年当たりの変化率に換算した値）では3.0%の減少となり、事前の市場予想（Bloomberg調査中央値）の0.7%減少を大きく下回りました。需要項目別の前期比増減率を見ると、新型コロナウイルスの感染第5波の影響から家計消費は実質1.2%減少、半導体や部品の供給制約が生じていることに起因して設備投資は実質3.8%減少、輸出は実質2.1%減少しました。新型コロナ感染第5波、および、半導体や部品不足の影響が予想以上に大きく、GDP成長率全体は2四半期ぶりのマイナスとなりました。

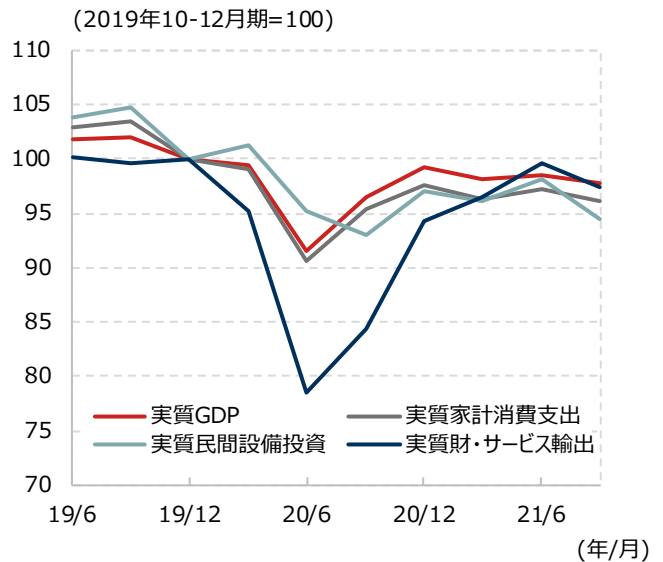
ポイント② 10-12月期はプラス成長見込み

10-12月期は、コロナ新規感染者数の大幅な減少とワクチン接種の進展などを背景に、個人消費の持ち直しが見込まれ、実質GDPはプラス成長となる見込みです。半導体などの不足に関しては徐々に緩和される見通しですが、10-12月期も供給制約の影響は継続することが予想されます。

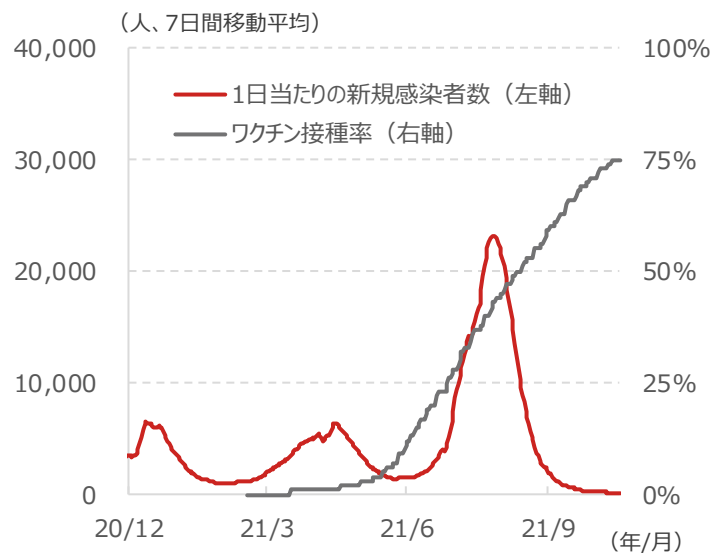
ポイント③ 供給制約と資源価格の動向に注目

政府は2021年内にコロナ前の水準までGDPが回復すると見込んでいましたが、7-9月期がマイナス成長となったことで目標の見直しの必要性が高まりました。今後は、世界的に経済正常化が進む中で、半導体や部品不足による供給制約、および、資源価格高騰に対する経済政策が講じられるかに注目が集まります。

日本の実質GDPと主要需要項目



日本のコロナ新規感染者数とワクチン接種率



重要イベント

- 11月17日 日本貿易収支 (10月)
- 11月19日 日本全国消費者物価指数 (10月)
- 11月30日 日本失業率、有効求人倍率 (10月)